

## \*エッセイ 私の見たニッポン

袁 桂 紅

朝、アパートの窓を開けると、清々しい青空の下に色とりどりの紅葉に染められた山並みが目に映る。爽やかな気分で遠くを眺める時、思わず8ヵ月間の留学生活が、いよいよ終わりを告げることを意識し、心の中に少し寂しさを感じる。大学時代からの憧れである留学生活は、自分にたくさんの思い出を残してくれた。美しい信州の自然、心温まる回りの人々、こじんまりとした洋風のキャンパス、いずれも私の心の中に強く刻まれている。



中国では古くから「百聞は一見にしかず」という諺がありますが、確かにその通りだとしみじみと実感しています。留学の機会に恵まれ、自ら日本での生活を体験することができ、自分の目で日本の社会の様子を確かめることができました。特に印象深かったのは、やさしい生活環境を創りあげるために、弛まぬ努力をしている現代日本社会の人々の姿です。日本という国が、なぜ世界の経済大国になれたのか、私は常に自分に問いかけてきましたが、今回の留学を通じて、ようやくその答えが見つけれられたように感じています。

日本人の勤勉さと仕事に対する真剣さは、世界各国の人々が周知のことです。しかし、仕事にただ勤勉なだけで、一国の経済が高度成長を遂げることはありえないでしょう。チャンスを見逃さずに、さまざまな情報を迅速につかんで、その上に知恵を絞り、人々の生活にふさわしい商品や行き届いたサービスを提供し、快適な生活環境と社会を創っているのです。それが経済の高度成長に大きく寄与しているのではないかと、思います。

日本の国土を踏んだ時から、その実感がありました。留学生活を送るため、たくさんの荷物を持ってきた私たちは、空港に到着した時には、不安な気持ちでした。空港から目的地の上田までは、2回乗り換えなければならないので、重いトランクなどの荷物をそのまま持っていくのかと心配していました。しかし、予想はずれ、とても便利な宅急便のサービスに救われました。全国的にネットワークが形成された宅急便のサービスは、料金的にも利用しやすく、そして迅速に届けられるので、国民の生活に大きな便宜を与えていると思います。中国には、このような宅急便のサービス業が殆どないので、よく出張する人や、旅をする人は、荷物の処理に頭を悩ませるのです。私は、日本の観光客のみなさんが中国旅行中に、荷物がときどき時間通りに届けられないことに、不満を抱く気持ちがよくわかりました。

日本で生活すればするほど、生活の便利さが一層感じられます。中国では、今でも都会

と農村では、いろいろな面である程度の格差があり、たくさんの人が都会に住むことを望んでいます。しかし、日本では、都会への憧れは、中国ほど強くはないようです。日本は都会にしる、小さな町にしる、便利に生活できます。むしろ、東京や大阪のような大都会に住むより、やさしい自然に包まれた郊外や小さな町に住む方が快適だとして、都会から離れた場所に住宅を建てる方も少なくないと、聞いています。

日本の町のあちらこちらに設置されている自動販売機、駅やスーパーの中にあるコインロッカー、公園や観光地に設置されている水飲み場等、公共施設も整っています。また、24時間営業のコンビニエンスストアは、住民の生活を便利にすると同時に、企業や国に大きな経済上の利益をもたらしてきました。このうち、日本のコンビニエンスストアは、私に新鮮なイメージを与えたものです。それは、日常の生活用品を売るだけではなく、公共料金の支払いや、映画・コンサートの予約券販売、電話注文、旅行の予約等、実にバラエティーに富んだサービスを提供しているからです。中国では、現在、このような公共施設や日本のコンビニエンスストアのような多様なサービスがまだ少ないので、リズムが速くなった現代生活においては、時々不便さを感じます。自分の生活に一番身近なことから生活空間・環境整備にまで、やさしく心を配り、人々と親しく交わり、ゆとりのある生活を送り、快適な生活環境を創ることが、経済を発展させる上で、最も大切なことではないかと思います。経済に関するチャンスは、人々の生活の中にあり、人間に対する愛情を込めて探せば、必ず見つけられます。日本が世界の経済大国に躍進できたのは、国民の知恵によって達成されたことです。私は、現代日本人の知恵と勤勉さに深く感銘しています。

中国は、12億以上の人口を持った大国で、経済市場も巨大です。特に、この十数年の間には、飛躍的な経済発展を遂げ、国民の生活も以前より、大きく改善されています。しかし、環境整備を人にやさしく進めている日本と比べると、まだまだ大きな開きがあると思います。現代の中国人は、祖先たちのようにもっと多くの知恵を掘り起こし、日本からも多くの事例を学んでいけば、必ずや、現代中国人の生活をより繁栄させることができ、国全体の更なる発展を成し遂げることができると確信します。



楽しい留學生活の間に、日本の国と日本の人々から、たくさんのことを学んだ。特に、日本人の持つ「進取の精神」は、常に私を励ましてくれるものである。これからも、自分の目標に向かい、より充実した人生を送りたいと思う。

さようなら！美しい桜の花の国。

（えん けいこう／1999年度留學生／北京職工対外交流センター）

## \*エッセイ 私の見たニッポン

降 瑜

ちょうど桜の花が満開となる季節に、上田での留学生活が始まりました。木々の新緑、静かな小さな町、遠く緑におおわれる山々、いずれも私には新鮮な感じを与えてくれました。こんな自然に恵まれたところで、勉強をし、生活することは、私にとって、とても楽しいことです。

アパートから大学までは、徒歩で20分ぐらいかかる道のりです。毎日、道の両側の景色が美しいので、大学までの距離はそんなに遠いとは感じません。

大学の授業が終わった後は、毎日、夕方に友達と一緒に散歩を楽しんでいます。田んぼの小道を歩きながら、遠くの山並みを眺めて、新鮮な空気をいっぱい吸い込みます。これは、一日の中で、一番楽しく、のんびりとした時間です。

大学での日本語の勉強に加え、毎月2回、友達と活け花の先生の教室へ通っています。活け花は、伝統的な芸術で、花をいけることを通じて、自然と人の心を通わせます。活け花の先生は、とても親切な方で、私たちを熱心に指導してくださり、私たちはたいへん感激しています。活け花のお稽古が終わると、いつも皆さんと一緒にお茶を飲みながら、いろいろな話をします。私の日本語の能力には限りがありますので、皆さんの楽しいお話を聞くことが中心となります。これも日本語の勉強のいい機会です。

中国にいる時は、休みの日には、よく自分の部屋のベランダから空を眺めていました。信州は、こんなに美しい自然に恵まれているのに、なぜ北京では、上田のようなきれいな青空が見えないのでしょうか。日本での留学生活を通じて、日本人は心から自然を愛し、そして大事にして守っていることを強く感じました。日本の人々は、環境保全をとても大切に考えているのです。中国では、環境汚染の問題がたいへん深刻になってきています。そして、人々もそのことを重視するようになってきています。しかし、日本と比べたら、まだたくさん問題があります。この点でも、中国は、日本の人々にこれからも学ぶところがあると思います。

北京の空は、いつの日か、信州の空と同じように青くて美しくなれるのでしょうか。

（こう ゆ／1999年度留学生／北京人民放送局）